

平成29年7月24日  
文化財課  
埋蔵文化財グループ  
担当者 宮川  
内線 5629  
直通 225-1842

小松市八日市地方遺跡出土品に係る記者発表について

- 1 発表内容 小松市八日市地方遺跡発掘調査の出土品について
- 2 日 時 平成29年7月27日（木）午後2時から
- 3 発表場所 石川県庁 行政庁舎18階 1811会議室
- 4 発表者 公益財団法人石川県埋蔵文化財センター
- 5 その他 発表当日までに、別添資料の記載内容に訂正等が生じることがありますので、ご承知ください。  
なお、発表当日は、今回発掘された出土品を公開し、担当より説明しますので、配付資料をお持ちください。

ようかいちじかた  
小松市八日市地方遺跡発掘調査の出土品について

## 趣旨

公益財団法人石川県埋蔵文化財センターが実施した、小松市八日市地方遺跡発掘調査で出土した「柄付き鉄製えつ てつせいやりがんな 鉈」について公表します。

- 1 出土品 柄付き鉄製鉈（弥生時代中期前半（約2,300年前））
- 2 遺跡名 八日市地方遺跡（小松市土居原町、日の出町地内）
- 3 形状 全長16.3 cm。鉄製鉈は長さ5.1 cm、刃部は三角形で両辺に刃がつく。木製の柄は長さ13.9 cm、太さ（グリップエンド状の端部）3.5 cm、断面形は円形から楕円形で、下方には格子文様が彫り込まれており、上半部を二枚合わせにして鉈を挟み込み、桜の樹皮を巻き付けて固定している。
- 4 発見日 平成29年6月5日
- 5 出土意義 木製の柄が完存する弥生時代の鉄製鉈としては、国内初出土で、最古の資料となる。  
鉄器が列島各地へ普及していく過程を考えるうえでも、極めて貴重な資料である。
- 6 提供資料 発表当日までに、別添資料の記載内容に訂正等が生じることがありますので、ご承知ください。  
なお、発表当日は、この配付資料をお持ちください。

## 【問い合わせ先】

(公財)石川県埋蔵文化財センター  
調査部特定事業調査グループ  
担当者 中屋 克彦  
林 大智  
内線 6540  
直通 229-4477

平成29年7月24日  
文化財課  
埋蔵文化財グループ  
担当者 宮川  
内線 5629  
直通 225-1842

ようかいちじかた  
八日市地方遺跡出土の「柄付き鉄製 鉋」について

平成 29 年 7 月 27 日  
(公財) 石川県埋蔵文化財センター

発表要旨： 小松市八日市地方遺跡で、弥生時代中期前半（約 2,300 年前）の「鉄製 鉋」が出土した。鉋は木製の柄に装着され、当時使用されていたままの状態<sup>てつせいやりがんな</sup>で出土しており、柄が完存する弥生時代の鉄製鉋としては、国内初出土で、最古の資料となる。

今回出土した鉋は、日本列島で鉄器の生産が始まる以前のもので、大陸からもたらされたものと考えられ、弥生時代に鉄器が列島各地へ普及していく過程を考えるうえでも、極めて貴重な資料である。

1 「柄付き鉄製 鉋」について

(1) 主な特徴

木製の柄が完存する鉋。全長 16.3 cm、柄の長さ 13.9 cm、太さ（柄の端部）3.5 cm を測る。鉄の部分は長さ 5.1 cm で、柄の中に 2.7 cm 挟み込まれている。刃部は三角形で、その両辺に刃がつき、幅 1.9 cm、厚さ 2 mm を測る。



柄の樹種は、カヤもしくはイヌガヤと見られる。横断面の形は円形から楕円形で、柄の下端に直径 3.5 cm のグリップエンドが削り出されている。また、柄の下方には、斜めの格子文様が彫り込まれている。

柄は、上半部を二枚合わせにして鉄製鉋を挟み込み、テープ状に加工した桜の樹皮を刃部側から巻き付けて固定している。

## (2) 時期

鉋は、遺跡を東西に貫流する川の堆積土（F層）から出土し、共伴する土器は、弥生時代中期前半（八日市地方 6・7 期）に位置付けられる。当該期の年代は、小松市教育委員会による科学的年代測定で紀元前 250 年前後（約 2,300 年前）にあたる。

## (3) 出土意義

今回の鉋は、日本列島で鉄器の生産が始まる以前の鉄器と考えられる。このような鉄器は大陸からもたらされた「舶載鉄器」と呼ばれ、鉋の他、斧、鑿などがあるが、当時の具体的な使用状況についてはほとんどわかっていない。

木器が多く出土している八日市地方遺跡では、精巧な造りの木器に残る加工痕から、弥生時代中期前半以降には、小型鉄器の使用が推測されてきた。その小型鉄器が今回出土した鉋である。しかも装飾性の豊かな木製の柄が完存し、当時の使用状況までもが分かるものである。

今回の発見は、この時期に、小型鉄器が木工具として実際に使用されていたことが明らかになっただけでなく、弥生時代に鉄器が列島各地へ普及していく過程を考えるうえでも、極めて貴重な資料である。

## 2 発掘調査の概要

- (1) 遺跡名 八日市地方遺跡
- (2) 所在地 石川県小松市土居原町、日の出町地内
- (3) 調査原因 北陸新幹線建設事業金沢～敦賀間に係る埋蔵文化財発掘調査
- (4) 調査担当 公益財団法人石川県埋蔵文化財センター（石川県教育委員会委託事業）
- (5) 調査期間 平成 29 年 4 月 4 日～平成 29 年 6 月 30 日
- (6) 調査面積 1,240 m<sup>2</sup>
- (7) 調査概要

平成 27 年度から始まった今回の発掘調査は、北陸新幹線建設に伴い JR 小松駅の東側を、北陸線に沿って遺跡を南北に貫く調査を実施したことになる。

調査範囲の中では、集落を東西に貫流する川の右岸（北岸）に平地式建物などの遺構が濃密に存在する居住域があり、その北辺を取り囲むように多重の環濠が掘削されていた。

また、環濠の北および川の左岸（南岸）側には、方形周溝墓を中心とした墓域が

広がっていることも確認した。

環濠に囲まれた居住域と川からは、弥生土器、玉作り関連遺物、木製遺物などの大量の遺物が出土した。

### 3 今後の展示公開

パネル展示

日 時：7月29日（土）～1ヶ月程度

場 所：石川県埋蔵文化財センター ホール

（金沢市中戸町18番地1 電話 076-229-4477）

〈コメンテーター〉

愛媛大学 東アジア古代鉄文化研究センター

センター長（教授） 村上 恭通（むらかみ やすゆき）（金属考古学）

電話（勤務先） 089-927-8391（代表） fax：089-927-8905

（携 帯） 090-7572-3571

（Eメール） murakami00321@yahoo.co.jp

（問い合わせ先）

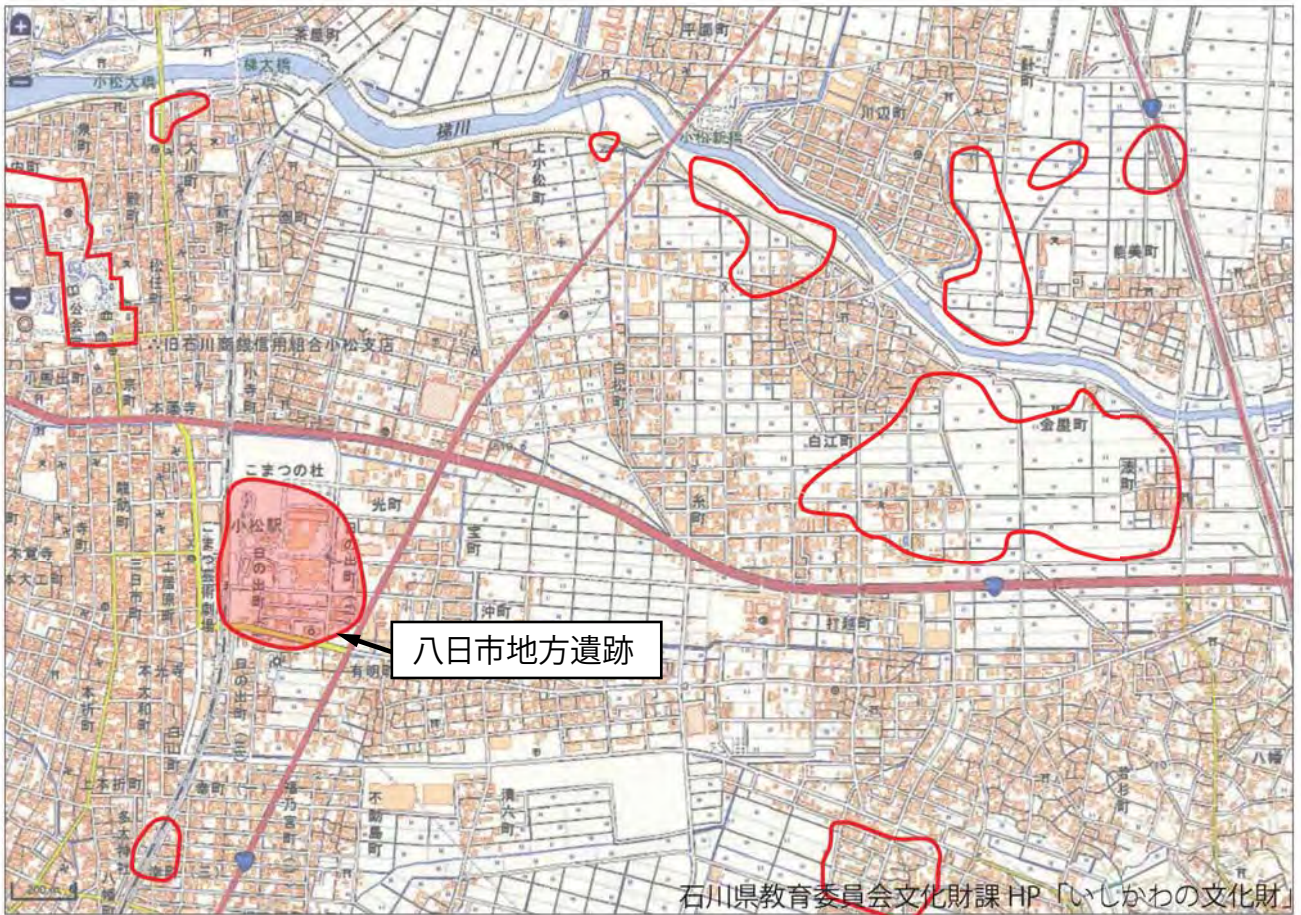
（公財）石川県埋蔵文化財センター

調査部 特定事業調査グループ 主 幹 中屋 克彦（なかや かつひこ）

同 専門員 林 大智（はやし だいち）

電話 076-229-4477（埋文センター代表）

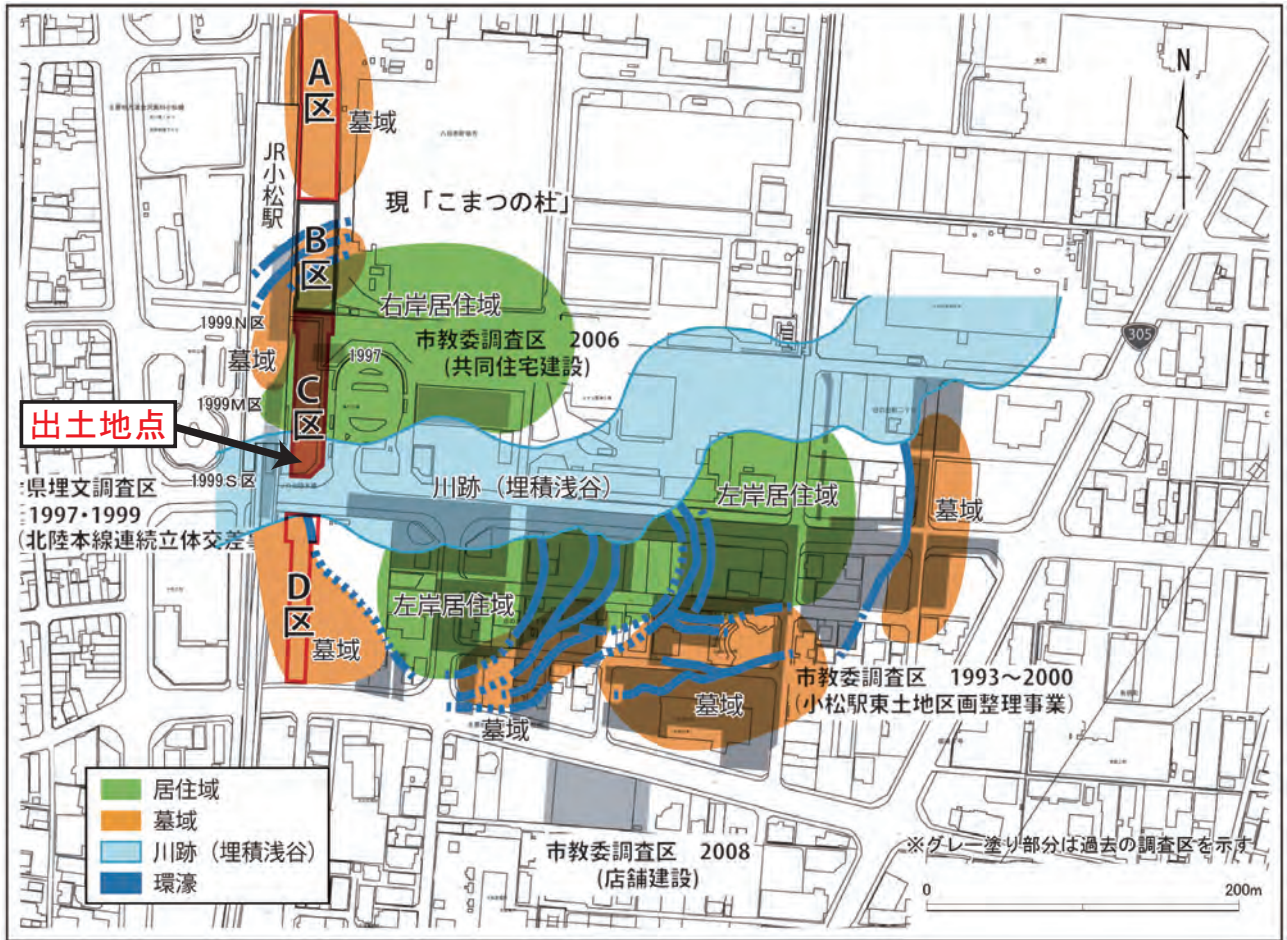
080-2959-9224（現場携帯電話）



石川県教育委員会文化財課 HP「いしかわの文化財」  
八日市地方遺跡の位置



鉈の出土地点



調査区の位置と遺跡概念図

(小松市教育委員会作成に加筆)





柄付き鉄製鉋



柄付き鉄製鉋



出土状況



発掘作業風景



出土地点（川跡）



発掘作業風景

「柄付き鉄製鉈」の時期・年代と八日市地方遺跡の変遷

(表出典：小松市教育委員会 2016 『八日市地方遺跡Ⅱ－小松駅東土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』)

時代時期 区分	畿内 様式	八日市地方		西暦		中国 大陸	八日市地方遺跡の変遷
		集落	土器	AMS	年輪		
縄文後期	I		0			春秋	川より遺物散見  クヌギ・アベマキ等(ドングリ)の貯蔵穴 <b>櫛描文系土器の波及</b>
縄文 晩期			1	-550			
弥生 前期			2	-400			
弥生 中期前半	II		3			戦国	★環濠掘削開始。環濠集落の成立 川肩部に木器貯蔵開始 管玉生産開始  ★環濠再掘削 居住域拡大 <b>小松式土器の成立</b>
			4	-350			
	I 期	5					
弥生 中期後半	III	II 期	6	-300		秦	★環濠再掘削  八日市地方遺跡の最盛期  ★居住域縮小 <b>凹線文系土器の波及</b> 川肩部に貝層・貯蔵穴(ヒシ・トチ等)
			7		-283+ -250+ -220+		
	8	-200					
	9		-136				
弥生 後期	IV		10	-100 -40		前漢	★集落廃絶
	V			*80		新後漢	

(下濱 2016 を一部改変)

・年輪年代における年代数値に\_があるものは心材型を示す。

・炭素年代測定における弥生後期以外の年代は、小林謙一、福海貴子、坂本稔、上藤雄一郎、山本直人(2009)「北陸地方石川県における縄文晩期から弥生移行期の炭素 14 年代測定研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 150、1-20。によるものである。

橙色塗り部分：「柄付き鉄製鉈」の時期・年代

※AMS—加速器質量分析 (AMS) 法による放射性炭素年代測定の略。資料中の放射性炭素 (<sup>14</sup>C) 比率から年代を測定する方法  
年輪—年輪年代測定の略。年ごとに異なる樹木の年輪成長量を利用して年代を測定する方法

## 八日市地方遺跡について

### ①立地

八日市地方遺跡は、小松市日の出町を中心とする JR 小松駅東側一帯に所在し、推定面積 15 万 m<sup>2</sup> を超える北陸地域を代表する弥生時代中期の大規模環濠集落<sup>かんごうしゅうらく</sup>である。

遺跡は、標高 1~2m 程度で南北に伸びる浜堤上に立地するものと考えられる。遺跡の南西側にはかつての今江潟、南側には木場潟、さらに北側には梯川が存在し、潟湖と主要河川の合流点という交通の門戸に位置する遺跡と捉えることができる。

### ②内容

八日市地方遺跡は、これまでも多くの発掘調査が実施され、集落中央を東西に貫く川（埋積浅谷）の両岸に多重の環濠に囲まれた居住域があり、環濠の外側には方形周溝墓<sup>ほうけいしゅうこうぼ</sup>を主体とする墓域が展開していることが明らかになっている。遺構では平地式建物、掘立柱建物<sup>ほりたてばしらたてもの</sup>、井戸<sup>どこう</sup>、土坑などを多数確認している。

発掘調査により発見された出土品は数十万点にも及ぶ膨大な量で、土器・土製品、木製品、石器・石製品などがある。土器では、近江、東海、瀬戸内、山陰などからの搬入品ないし模倣品が含まれており、広範な地域間交流が行われていたことを示している。

生産関連では、ヒスイ製勾玉や碧玉製管玉<sup>へきぎよくせいくだたま</sup>、木製の農耕具、容器類、食事具などは、原石や原木から製作途中のものや製作に使用された道具がともに出土し、製作工程を示す良好な資料が含まれている。

また、鳥や人、シカ、魚、武器などをかたどった土製品や木製品などの多様な形態の祭祀具も出土している。

これらの出土品は、「北陸地方を代表する、弥生時代中期に盛行した拠点集落の出土品一括として、弥生時代の生産・流通ならびに祭祀を復元するうえで極めて重要である」として、1,020 点が平成 23 年 6 月に国の重要文化財に指定されている。



重要文化財指定品の一部／撮影 小川忠博